

# V S O P

飯豊町立飯豊中学校  
第2学年通信  
No.18  
令和2年7月10日

## 今の時期だからこそ。。。。

昨日の総合学習の時間に「修学旅行の延期」についてお話をしました。楽しみにしていた皆さんやお家の方の気持ちを考えると苦渋の決断でした。しかし、昨今の東京近郊のコロナ感染状況を考えると、やはり「県をまたぐ移動を伴うリスク」を、皆さんやお家の方に強いるのは、決して最善の策ではないと考えました。ご理解とご協力をお願いします。

ところで、7月も上旬を過ぎ、1学期のゴールが見え始めました。大切なまとめの時期です。そんな時だからこそ、皆さんにもう一度考えてほしいことがあります。

### 「当たり前の基準」下がっていませんか？

今となっては皆さんが当たり前のように過ごしている学校生活も、4月当初は「新型コロナ封じ込め」が最優先でした。皆さんもそれが当たり前だと思っていたはずです。あの時と今を比べてみてください。劇的に大きく変わったことはあるでしょうか？飯豊町や他地市町の感染リスクに変化があったのでしょうか？いいえ。コロナウィルスのリスクは4月から何一つ変わっていません。なのに、マスクをつけずに玄関に入り、廊下で大きな声を出し、友達と腕を組んで歩いています。集会で集まれば、友達と話をし、悪ふざけを始め、ソーシャルディスタンスの意識はほとんど感じられません。

### 基準は変わっていません！変わったのは私たちの意識です。

修学旅行スローガンの「身につけてほしい力」の中に「状況を適切に判断して行動できる力」というのがありました。「当たり前の基準」が下がるということは、「状況を適切に判断できていない」ことの裏返しであり、日々の向上で修学旅行の成功を目指す2年生に必要な姿ではありません。「自分だけはいいべ」とか「見つからなければいいべ」と考えがちな人は、「適切な判断」が苦手な人です。そういう人が増えると「みんなしていないからいいべ」という新たな基準が勝手に生まれます。その基準が生まれてしまえば、「していないこと」が当たり前になってしまい、正しい判断をしている人が少数派のようになってしまいます。

修学旅行は延期になりましたが、その取り組みは修学旅行終了まで続きます。今の時期だからこそ自分の弱いところを見つめなおし「正しい当たり前」を当たり前にする2年生で1学期を締めくくりましょう。きっとその先に修学旅行の成功が待っているはずです。